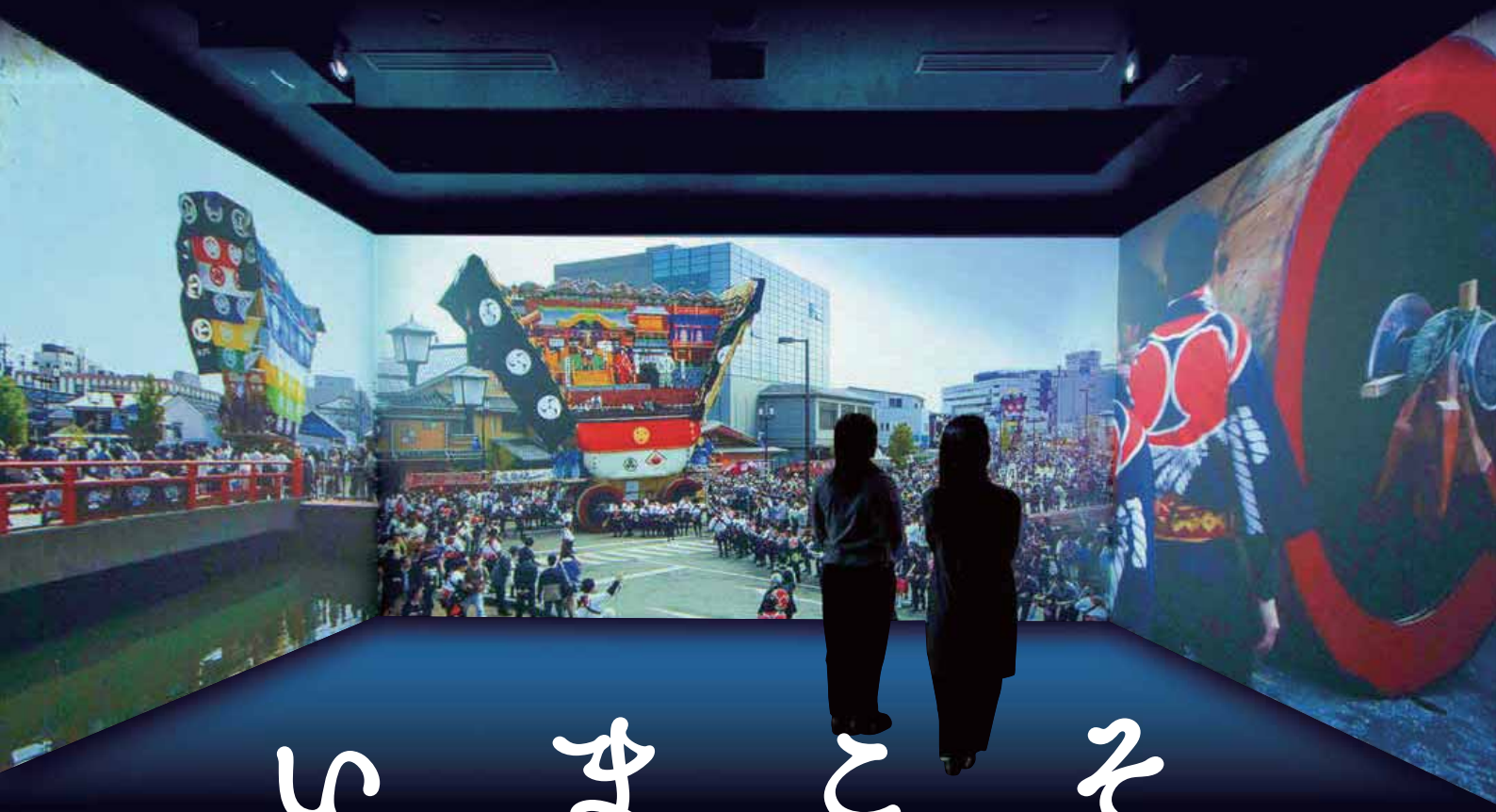
石川 ISHIKAWA PREFECTURAL MUSEUM OF HISTORY

れきはく

No.137
2022.2.4



いまこそ歴博

常設展示

祭礼体感シアター

常設展示 いまこそ歴博

中世 薬師如来坐像

【年　代】鎌倉時代
1208(承元２)年
【所蔵者】髙爪神社(志賀町)

能登十二薬師の一つで、元は髙爪神社の別当寺だった大福寺に安置されていました。像内部の銘文から製作年の分かる貴重な仏像です。
高爪山は能登有数の霊山で、円錐形の山容から「能登富士」の別称があります。

石川県指定文化財

古代 陶硯（とうけん）

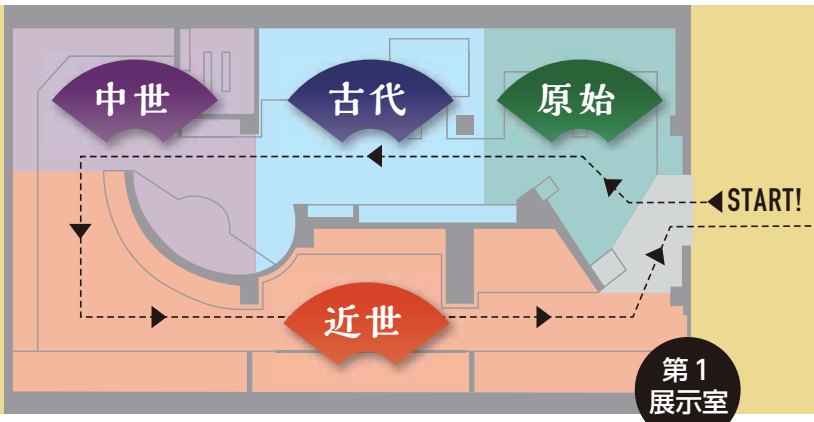
【年　代】平安時代　９～10世紀
【所蔵者】本館
【出土地】白山市知気寺遺跡出土

古代の硯は陶製で、主に役所や寺院の遺跡から出土します。この硯は、硯面がＬ字形に区切られ、右手前に円形の水溜がつけられています。
中国の唐の影響を受けたとみられる特殊な硯で、全国的にみても類例の少ない貴重な資料です。

原始 注口土器

【年　代】縄文時代
紀元前16世紀頃
【所蔵者】本館

志賀町の酒見新堂遺跡から出土したもので、注ぎ口が付いているのが大きな特徴です。同様の土器は東北地方を中心に、北海道から能登半島にかけて分布しており、当時の交易範囲の広さがうかがえます。



近世 前田利常書状つほね宛

【年代】江戸時代　〔1614(慶長19)年〕　【所蔵者】個人

大坂冬の陣の直前、10月19日に近江に入った利常は、徳川家康が24日に上洛する情報を掴んでおり、24日までには京に入ると伝えています。この年、利常は22歳。宛所の女性(局)に「やがて凱陣する」と豪語し、初陣を前に心勇む利常の様子がうかがえます。

石川県指定文化財

近世 北前船模型〔小〕

【年代】明治時代　20世紀　【所蔵者】本館

船主家伝来の模型です。帆の下に緑色の部品〔舷側灯〕がみえます。右は緑、左は赤。1880年代、国際ルールで設置が義務化されました。現代の船(船橋横)や飛行機(翼)にも設置されています。

普段は特別展を中心にご紹介しておりますが、当館は常設展にも力を入れております。展示は「石川の歴史と文化」をテーマとし、石川の生い立ちを象徴的なテーマで概観する「歴史展示」と、加賀や能登の風土に根ざした個性あふれる祭りを紹介する「民俗展示」で構成。実物資料のほか、ジオラマや模型、大型スクリーンなどによる映像、展示パネルを駆使して、インパクトがあり誰もが楽しく学べるよう心がけています。

今回はそんな常設展の中から、各分野の学芸員に聞いた一押しの実物資料をご紹介します。年に数回展示替えを行っておりますので、すべてを見るならこの冬がチャンス！暖かい展示室で、こころゆくまで歴史の旅をお楽しみください。

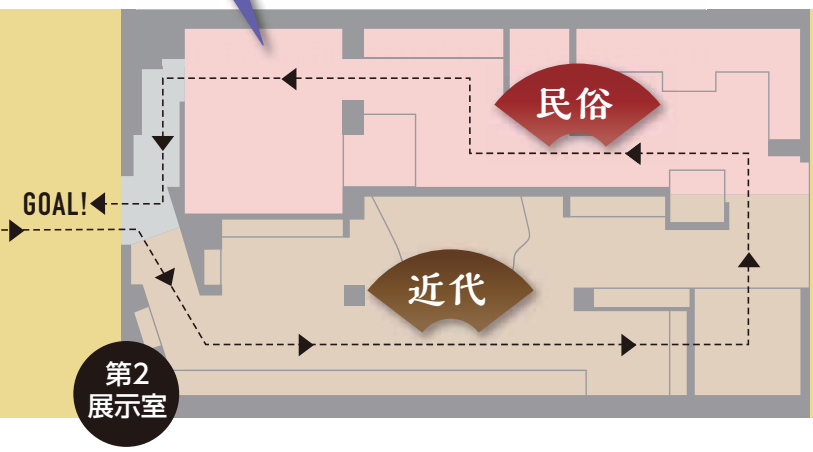
民俗　御座船型曳山図額

【年　代】江戸時代　1866(慶応２)年
【所蔵者】秋葉神社(金沢市)

御座船型の巨大な曳山の中で、裃姿の人々が雅楽を奏でる華やかな場面が描かれます。しかし加賀藩領にこのような曳山が存在した形跡は無く、制作された経緯は謎です。豪華な曳山を神に捧げたいという願いを表したものかもしれません。

注目コーナー　祭礼体感シアター

緊張感と躍動感がみなぎる圧巻の祭礼世界を、光、音、振動を駆使したアトラクション的な展示空間で体感！



おすすめグッズ

ガイドブック『展示案内』
定価 1,000円（税込）

当館の常設展の内容を分かりやすくまとめた一冊。当館ミュージアムショップおよび通販で好評販売中！おうち時間に読むもよし、展示室でのお供にもよし。ぜひお買い求めください。

近代　写生帖（鈴木華邨旧蔵資料）

【年代】明治時代　1891－92(明治24～25)年　【所蔵者】本館

鈴木華邨は明治22年から26年に石川県工業学校で教鞭をとった画家。本年度春季特別展で特集した小原古邨の師匠でもあります。本写生帖は華邨の石川赴任時代のもので、身近な花や動物などを角度を変えて様々に写し取っており、その細かさに思わず見入ってしまいます。

資料紹介

2021年新収蔵品紹介

学芸員　野村　将之

本館では、石川県の歴史と文化に関わる資料を体系的に収集しています。2021年も県内外の皆様のご好意により多くの資料をご寄附いただき、当館が購入した資料も含めると計274点の資料を新たに収蔵しました。

さて、本館では毎年、企画展を通して新収蔵品を公開しておりますが、今年度は館内の改修工事の影響で企画展を開催できませんでした。そこでここでは、2021年の新収蔵品の中で特に注目される資料をご紹介します。

関羽之図　納富介次郎筆

作者の納富介次郎（1844–1918）は佐賀県出身の工芸教育者で、介堂と号しました。明治15年（1882）には石川県に来県し、明治20年に設置された金沢工業学校（石川県立工業高等学校の前身）の初代校長を務めました。九谷焼を中心に工芸教育に力を注ぎ、近代における石川県の美術工芸の発展に大きく貢献しました。

この掛軸は納富から、同じく金沢工業学校で教鞭をとった友田安清（1862–1918）に贈られたもので、蜀の武将である関羽が描かれています。中国の武将は、納富が得意とした画題です。

恋路浜より蛸島迄之惣図・三崎高勝寺高座山大宮司等惣図

２つの絵図を１巻に仕立てたもので、「恋路浜より蛸島迄之惣図」では恋路浜を手前に、蛸島を奥に据えて湾曲する海岸線を描き、見附島と弁天島も確認できます。一方、「三崎高勝寺高座山大宮司等惣図」では、須須神社およびその別当寺であった高勝寺が描かれています。このうち高勝寺は明治維新の際に廃寺となり現存せず、本資料は当時の伽藍配置を知るうえで貴重な資料であるといえます。

この他にも、金沢出身の絵師・小原古邨の師であった鈴木華邨が旧蔵していた資料や、加賀藩前田家14代・慶寧の書、第四高等学校の学生の生活を記録した写真アルバムなど、多彩な資料が新たに加わりました。来年度以降、展示の機会を設けて広く公開したく考えております。

最後になりましたが、貴重な資料をご寄附いただきました皆様に心より感謝申し上げます。

■ 2021年　新収蔵品一覧

（五十音順、敬称略）

資　料　名	点数	寄贈者
アイヌ衣装	2	北潟　宣治
海図	10	〃
短刀　無銘	1	貞包　利文
前田慶寧書幅	1	〃
西郷隆盛書幅（印刷）	1	〃
前田利家書状　越後中納言宛	1	鮫島　和子
金沢城絵図幅	1	白川　誠治
四高生写真アルバム	1	豊秋　博子
達如版　五帖の御文	1	中井　恵子
蒔絵硯箱「和歌の浦芦」	1	〃
和讃卓	1	〃
掛軸（春暁花冠之図）	1	中山　安子
図案（写生図）	4	〃
木彫皿（組皿）	20	〃
紋付（小）	1	〃
日本画木版集	31	〃
掛軸「関羽之図」	1	〃
掛軸「寒山拾得図」	1	〃
上絵壺	1	〃
上絵組皿	6	〃
図案帖	3	〃
大日本窯業協会雑誌	1	〃
江戸名所之図	1	〃
友田家文書資料	2	〃
友田安清肖像写真	1	〃
橋本澄夫氏調査資料（追加分）	70	橋本　澄夫
小型船建造図面	11	番匠　博和
大日本交通全図	1	〃
薬種商看板	1	森田　正人
サイ衡立	1	〃
写真アルバム	3	山本　啓史
北國夕刊新聞附録　当選十美人	1	（購　入）
「政教新聞当撰高点十二美人」絵葉書	6	（購　入）
恋路浜より蛸島迄之惣図・三崎高勝寺高座山大宮司等惣図	1	（購　入）
鈴木華邨旧蔵資料	84	（購　入）

学芸員コラム
Column

― 松楓殿（しょうふうでん）と北陸の工芸 ―

普及課長　鶴野　俊哉

令和元年（2019）より、高岡市教育委員会の依頼で松楓殿に収蔵されていた工芸品の調査をおこなっています。

松楓殿は、明治37年（1904）にアメリカ・セントルイス万国博覧会の日本館パビリオンとして建設され、万国博覧会終了後、アドレナリンやタカジアスターゼ等を発見した世界的科学者である高峰譲吉博士が譲り受けてニューヨーク郊外に移築し、世界各国の要人らをもてなすための迎賓館として活用されました。

これまでの調査で、松楓殿の収蔵品には明治33年（1900）に開催されたフランス・パリ万国博覧会出品作品や、高峰博士と親交が深かった芸術家らの作品とともに、石川・富山両県からセントルイス万国博覧会に出品された工芸品が多数含まれている事がわかってきました。この事実は、高岡生まれで金沢育ちの高峰博士が、郷土の工芸品の素晴らしさを世界に向けて紹介していたことを示すものです。

当時の状況がわかる資料として、明治31年（1898）に石川県工業学校を卒業し、セントルイス万国博覧会石川県渡航委員を務めた小原喜三郎氏が記した回顧文を紹介します。

松楓殿の内部装飾（提供：京都工芸繊維大学美術工芸資料館）

収蔵品調査の様子（写真は山中商会製の椅子）

郷土工芸から世界工芸へ（六十余年来の念願）

小原　喜三郎

三十一年の卒業、といっても昭和ではなく明治です。私は今から六十年前の在学生。染色科へ入学して染織科を卒業した。校長では理学士久田督先生に一番お世話になった。というのは、課外講義として英語を教えて戴いたからです。東大の外人教師直伝の英語で、その発音は日本人離れした立派なものだった。染色科では相川、渡部、小泉の諸先生、染織科になってからは、玉川町に工場を経営しておられた長沢先生、畠中牛吾郎という名のしかも麒麟のような背の高い先生がおられた。長沢先生の外は皆蔵前出身であった。絵画を教わったのは、高屋、関の両先生に、久保田米僊先生。米僊先生は漫画も画かれシャレもお好きだった。　～中略～　私がなぜ当時の工業学校へ入学したのかというと、兄が高岡町にあった前田家経営の織物工場を引受けようとしていたからである、そのため兄からいわれるままに入学したのであるが、三年程たつと、兄が更に銀行をはじめた。そこでまた銀行に関する勉強をしてくれということになった。上京して慶應義塾へ入学したのはそんな理由からである。

明治三十七年春、愈々同大学卒業という時、米国聖路易（セントルイス）市に萬国博覧会が開催されることになった。石川県から随分沢山の出品が企てられた。そこで当時の金沢商工会議所会頭の水登勇太郎氏と共に私が石川県渡航委員に命ぜられて、当時としては破格の年俸三千六百円の辞令をもらって渡来したのである。九谷焼、羽二重、刺繍、友禅、輪島山中の漆器、鶴田大垣旧新両派の金沢蒔絵、源六の象嵌、七宝、寒雉の鉄器など立派な出品が揃って絢爛を極めた。在米の先輩金沢人高峰譲吉博士らの驥尾に付して私もまた郷土工芸の宣伝に大いに努力したつもりである。～後略～

石川県立工芸高等学校七十年史より

研究ノート

金沢歌舞伎最後の女役者

学芸主査　大井　理恵

「女役者」とは歌舞伎を演じる女性の役者を指す。明治期には多くの女役者が生まれ、女性だけで演じる「女歌舞伎」も人気を博した。しかし歌舞伎の本流からは外れたものとみなされ、特に地方で活動した女役者の実態はほとんど知られていない。今回は大正期に当地で歌舞伎の舞台を踏み、新派女優、振付師として活躍した一人の女性を取り上げることで、その一端を紹介したい。

一、七尾生まれの尾上梅女

明治期の金沢はいくつもの芝居小屋が集客を競い、人気役者が来演すると共に、地元を拠点に活動する「地役者」が活躍、歌舞伎熱がピークに達した。しかし時代とともに娯楽も変化、大正12年（1923）、「加賀の團十郎」と呼ばれたスター・四代目嵐冠十郎の引退により、金沢歌舞伎は実質的に終焉を迎えたといわれる。当地の歌舞伎が最後の光を放った大正期、冠十郎が座付となっていた香林坊福助座に登場したのが尾上梅女であった。

梅女の本名は島崎きくの、父島崎市太郎は七尾で芝居小屋「歌舞伎座」を経営していた。生年は明治32年（1899）頃、幼い時から義太夫を習い、また冠十郎一座の中村雀芝に踊りの指導を受けた。福助座への初出演は大正４年（1915）、16歳頃で、以後冠十郎一座の舞台で女形の主要な役をつとめている。芸にうるさい金沢の観客にも受け入れられたようで、批評家の窪田夢之助も「一チ眼に付いたのが梅女といふ女優、肉は些と足らねど身長もあり顔も美しく、扨て演る事は却ゝ旨いもの、まだ若い丈に色気がなく、お音羽などは無理なれど可なりに科して見せ、お舟も好くお軽が一番好かつたり、冠十郎指導の下に二三年確乎と仕込んで見たいもの也」と評している（『北國新聞』大正４年10月５日）。福助座座主の太田七兵衛（初代梅若）が梅女に目をかけ、冠十郎に頼み直に芝居を仕込ませたことが功を奏したのであろう。

坂東音芽（野島左喜子）
内灘町史編さん専門委員会編『内灘町史』
（1982）より転載

大正７年（1918）、梅女は都会の舞台を志し上京する。その際頼ったのは福助座に度々出演していた二代目坂東彦十郎で、名を坂東音芽と改める。音芽は彦十郎のもと、赤坂演伎座で若女形としてデビューするが、その年に彦十郎が急死、翌年には後継の竹三郎も死去。後ろ盾を失い、中村歌扇率いる女歌舞伎の一座が拠点としていた神田劇場に移る。当時、一座は女歌舞伎に加え、新派の男性俳優を交えた連鎖劇（新派劇と映画を組み合わせた芸能）を上演していた。歌舞伎はすでに斜陽であり、音芽には新派女優として自身の幅を広げる意図もあったようで、ここでは新派劇に出演している。しかし間もなく横浜喜楽座に移ると、以後大正12年（1923）まで新派女優として活動した。音芽の横浜時代は華やかだったというが、情報が乏しく、当時の役柄などは分からない。

二、粟ヶ崎遊園のスター・野島左喜子

関東大震災の後郷里に戻った音芽は、大正13年（1924）１月、福助座一行とともに七尾の能登劇場披露興行に参加。しかしすでに冠十郎は引退、金沢歌舞伎は終幕の時であった。音芽は昭和３年（1928）頃から、野島左喜子を名乗り粟ヶ崎遊園の大衆座に出演する。「北陸の宝塚」と名高い同園は大正14年開園、少女歌劇のレビューの印象が強いが、少女歌劇団の創設は昭和３年で、全盛期を迎えるのはさらに５～６年後である。それまで演芸部門を支えたのは同じく昭和３年にできた大衆座で、新派の川上一郎を座長に、座付の文芸部が新派劇や時代劇、喜劇など既存の台本を脚色して上演、オリジナル作品も手掛け精力的に活動していた。

左喜子は発足当時から大衆座の中心で、新派の名作「不如帰」では主役の浪子を任されている。また昭和４年に本多政均暗殺と仇討を題材にした新聞小説「加賀白刃録」を劇化した際は、ヒロインの芸妓お蝶を演じた。同作については「背景の美しさと共に川上の忠僕彌兵衛、野島のお蝶、菊田の彌一、岩浪の芝木喜内の熱演振りは大喝采であった。最後に花笠姿の踊り子大勢が美しい手振りで兼六園で踊るところで幕」（『北國新聞』昭和４年１月28日）とあり、大衆座演劇と少女歌劇が融合した芸態であったことがうかがえる。粟ヶ崎では当時、大衆座座員がレビューに参加することも多く、左喜子は歌舞伎舞踊を取り入れた作品などで主演している。経験の浅い女優が多かったという少女歌劇団は、大衆座との合同作品の上演を重ねて腕を上げていったのであろう。その途上において、歌舞伎から新派までをこなす左喜子は花形といえる存在であった。

昭和８～９年（1933-34）にはレビューが一定のレベルに達し、ミラノマリ子、音羽君子らが人気に、粟ヶ崎の売り物は少女歌劇に完全に移行する。昭和10年には壬生京子が登場、熱狂的な人気となる一方、左喜子の出演はこの年を最後に途絶える。レビュー人気の陰で大衆座は解散したと言われ、年齢的にも30代半ばとなった彼女は活動の場を移したのであろう。

三、振付師匠・坂東音芽

一方の福助座は、初代梅若が昭和３年（1928）に死去、後継の吉太郎は貸衣裳屋に転じた。もともと歌舞伎が不況となった明治末～大正期には、冠十郎ら地役者は各地の素人芝居の振付に奔走、あわせて梅若も貸衣裳を行っていた。戦中は衣裳を疎開させて凌いだそうだが、戦後になると数少ない娯楽として祭礼芝居や演芸会が流行し、梅若の貸衣裳は賑わうようになる。この頃二代梅若とともに芝居の振付をしたのが、粟ヶ崎を去った左喜子であり、再び坂東音芽を名乗った。

砺波 出町子供歌舞伎記念写真（東曳山・後列中央が音芽）　昭和33年（1958）　個人蔵

音芽は、県内はもとより、北陸一帯で素人芝居の指導を行ったとみられる。特筆すべきは小松、砺波の曳山子供歌舞伎で、戦後しばらく音芽をはじめ、嵐冠五郎、中村福成ら金沢の地役者の弟子筋の者が振付師匠として活躍した。小松では明治後期より芸妓見習いの少女が役者を務め、10町曳き揃えをするなど隆盛を極めたが、この頃より長く金沢の地役者が振付に携わっている。砺波ではもともと地元に振付師がいたが、昭和20年代から音芽らを招くようになり、昭和末期まで続いた。小松、砺波において現在まで子供歌舞伎が継承された背景として、浄瑠璃が盛んであったことは言うまでもないが、地役者の存在も忘れてはならないだろう。音芽の死去は昭和43～44年（1968-69）頃だが、昭和42年まで振付師に名がある。晩年まで現役であったとみられ、当時を記憶する人は、人柄は穏やかで指導も丁寧、何より演じてみせてくれたらとても上手かった、と言う。

金沢歌舞伎の末裔ともいえる梅女（音芽）が、粟ヶ崎遊園で人気女優となり、後年は素人芝居に関わり子供歌舞伎の継承に資するなど、地元の演劇界で長く活躍したことは非常に興味深い。今では影が薄くなった当地の歌舞伎文化の懐の深さを見るようである。

参考文献：機関誌『粟ヶ崎』　昭和８年11月下旬号　1933年　内灘町歴史民俗資料館蔵
大林昇太郎「七尾の芝居」『石川郷土史学会々誌』第10号　1977年
多田美代発行『風と砂の館資料から探る、粟ヶ崎遊園90年』2014年

休館のおしらせ Information

2月28日(月)～3月9日(水)の間、館内改修工事のため臨時休館いたします。

これに伴い、2月・3月の催し物はございません。
ご不便をおかけしますが、どうかご容赦ください。

令和4年度 れきはくメイト会員募集開始！

3月10日(木)より、令和4年度「れきはくメイト」の新規・更新受付を開始します。歴史が好きで何度も博物館を訪れたい方、各種イベントを通じて石川の歴史をより詳しく学びたい方におススメです。
募集期間は随時。**詳細は当館HP、または普及課（076-262-3417）**までお問い合わせください。皆様のお申し込みをお待ちしております。

会員限定の情報紙「れきはくメイト情報」で、最新の話題をいち早くお届けします！

「れきはくメイト」とは？

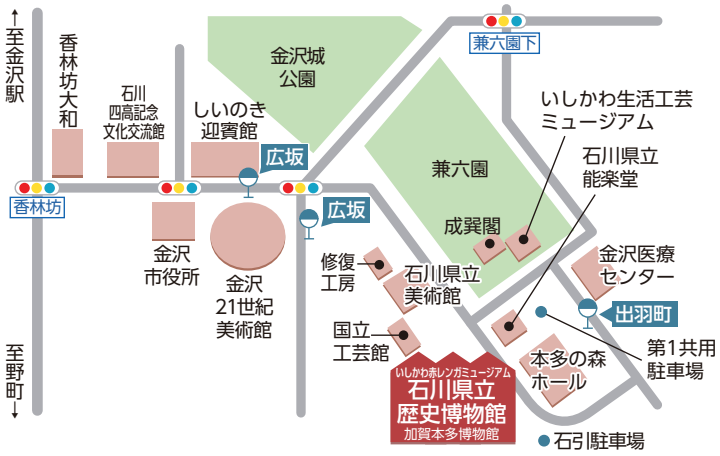
石川県立歴史博物館をより身近なものとしてご利用して頂くための組織です。
ご入会いただくと、入館料の減免や限定イベントなど様々な特典があります。

会費 1,500円（大学生以下 750円）
※10月以降のご入会は一般750円になります

特典例
1. 会員証提示により、当館の常設展示を無料で観覧できます。
2. 会員証提示により、当館の特別展を団体料金で観覧できます。
3. 当館の最新情報を随時ご案内します。
4. 当館が主催する会員限定イベントに参加できます。
5. 会員証提示により、当館発行の図録やオリジナルグッズを10%割引で購入できます。

※展覧会やイベントは、新型コロナウイルスの影響により中止となる場合があります。

申込方法 来館または郵便振替



いしかわ赤レンガミュージアム
石川県立歴史博物館
ISHIKAWA PREFECTURAL MUSEUM OF HISTORY

〒920-0963 石川県金沢市出羽町3-1
TEL：076-262-3236　FAX：076-262-1836
E-mail：rekihaku@pref.ishikawa.lg.jp
https://ishikawa-rekihaku.jp/

広告

石川県立歴史博物館「石川れきはく」に広告を掲載してPRしませんか？
サービス・集客

れきはくメイト（友の会）会員、学校、博物館、図書館、その他公共施設へ 配布!!

ターゲットを狙った知名度向上

石川県立歴史博物館の信頼度の高い広報媒体

お問い合わせは 株式会社ジチタイアド ☎092-716-1401（代表）
福岡県福岡市中央区薬院1-14-5 MG薬院ビル7F 財源確保 検索
※株式会社ホープの広告事業は、2021/12/1付で「株式会社ジチタイアド」に分社化しております。